



～ 講演委員会便り～

（講演会内容は、オフレコではありますが、ご参考のため、講演委員の感想文の形でまとめたものです。文責は講演委員会にあります。）

令和3年6月28日（月）

講師 副総理兼財務大臣
麻生 太郎 氏

演題 新型コロナ対応と内外の主要課題

麻生大臣は、第92代内閣総理大臣を務めた政界の重鎮。公務多忙な中、1時間にわたり、「新型コロナ対応と内外の主要課題」ということで熱のこもったお話をいただいた。



まずは新型コロナの状況を説明された。1年3か月前のロンドンの国際会議では、アジアの片隅の問題と思われていたのが、たちまち世界全体の深刻な問題になった。日本の10万人当たりの感染者は極めて少ないが、経済へのショックは、リーマン・ショック以来ともいわれている。リーマンの時には、世界中でお金が無くなった。そこで、日本がIMFに10兆円の融資をして多くの国々を救済した。今回は、お金は有り余っている。それを使ってくれる人がいない。それにどう対応するかが問題。そんなときには、政府が出て行って、まずは経済を立て直す。それから財政再建ということになる。MMT論者のように無責任なのはいけないが、それがものの順序というものだ。ところが、わかっていない人が多い。わかっていないといえば、かつてのデフレ対策もそうだった。デフレなのにインフレ対策のようなことをやっていた。日銀もわかっていなかった。それを説得するのに、当時の財務省の担当者はずいぶんと苦労した。今は、黒田総裁になってうまくいっている。国の借金を心配する人がいるが、自分が財務大臣になって以来、国の新規借り入れを13兆円も減らした。今回の新型コロナのおかげで90兆円も増えてしまったのは困ったものだが、仕方がない。

新型コロナは未知の感染症で、その対応は試行錯誤にならざるを得ない。結果について後世の評価ということだ。今日、高齢者にワクチンが行き渡り重症者や死者は激減している。マスコミが言っているような、とんでもない事態にはならない。

日本の中長期的な課題は人口減少。短期的には、私のような後期高齢者や女性が頑張っているので心配ない。ITの活用もプラス要因だ。中短期的には、外交、特に中国の問題が心配。米ソ対立が終わった後の日米摩擦に対しては、日本が米国での現地生産を増やすことなどによって対応して今や日米関係は良好。その間に、弱者だと言いながら世界で稼ぎまくり、それを軍事に回して米国に太平洋を二分しようなどと持ち掛けたのが中国。米国には、早くから問題だと言ってきたが、ようやく最近気が付いた。トランプのころからだ。先のG7では、日本はこの問題をリードした。台湾有事では、台湾国内の治安の乱れに乗ずる形で中国軍が派遣され、国内問題だとして既成事実化されてしまうことが考えられる。そうならないように日米間でよく連携しておくことが大切だ。菅総理は、G7でそういった問題をしっかりと主張し、それで宣言に台湾という言葉が入った。ずいぶんと熱弁をふるったと聞いている。大切なのは、日本が世界の金融大国にふさわしい責任と行動をとることだ。我が国の国益に合致するルールを国際的に主張していくことも大切だ。

お話の後、会場からは、麻生大臣のダンディーさの秘訣、自民党の活力の秘訣、オリンピックへの思いはといった質問があった。オリンピックに関しては、英国のジョンソン首相から、反対があっても断行すべきだとの激励があったこと。自分もオリンピック（モントリオール・オリンピック、クレー射撃）だが、やれば気分も変わってくるとのお答えがあった。（T.M.）

～ コロナ感染症問題への対応について～

9月30日（木）まで発出されていた政府の「緊急事態宣言」は解除され、最近の感染状況も減少傾向が続いております。日本倶楽部の対応につきましては、感染再拡大の懸念も念頭に置きながら、下記のとおりとさせて頂きます。今後対応を改める場合は、事前にご連絡いたします。

- ・ 定例午餐会（11月15日（月））を食事付きで再開（12時20分より開催）
（但し、人数制限約30名とし、事前登録制とする。電話で申込みをお願いします。）
- ・ その他は、当面現状どおり
（講演会は、従来通りディスタンスを確保し開催）
（その他、委員会、倶楽部活動等は、活動ごとにそれぞれ検討）

なお、コロナ感染予防につきましては、引き続き、より一層の感染予防対策（マスク着用、アルコール消毒、検温など）を十分行って頂きます様お願い致します。ご自愛の程お願い申し上げます。